

「光は見えている」

コリントの信徒への手紙一 10章13節

大学事務局学務部部長 森 清

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行し始めてから、1年半以上が経過しました。昨年度、国内のほとんどの大学では「対面授業」から「オンライン授業」への移行を余儀なくされました。本学でも、秋学期より一部の授業で5週に一度の対面授業を実施しましたが、ほとんどの授業が一年間、オンライン授業となり、また、入学式は中止、ヴェリタス祭(学園祭)もオンライン開催となりました。

学生の皆さん、特に今の2年生の中には一度も大学に通学することなく、一年間過ごされた方も多いのではないのでしょうか。勉強やサークル活動など、キャンパスライフを楽しみにしていたにもかかわらず通学ができない方、先が見えない中、将来に不安を覚えた方も多いことでしょう。度重なる緊急事態宣言により、友人にも会えない、中には家族にも会えなかった方もいるでしょう。今まで当たり前だと思っていた普通の生活が、どんなに幸せなことであったか、改めて考えさせられたのではないのでしょうか。

本日の聖書箇所「…神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それを耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」という御言葉があります。

私たちはこの一年半の間に、COVID-19について、いかに対処すれば良いか知見を深めました。マスク着用、手洗い・消毒、ソーシャルディスタンスを保つなど、一人一人が感染予防対策を講じれば、対面授業での感染リスクはほとんど無いということも分かってきました。

学生のICT活用スキル、教員のオンライン授業のスキルも格段に向上しました。科目によっては対面授業以上の評価を得ていますし、オンライン授業が増えたことにより、学生の授業外での学修時間が増え、コロナ前よりも学生の学力が向上しているという意見もあります。また、コロナ後もオンライン授業の手法は残るとも言われています。皆さんのこれまで苦労は決して無駄ではなく、社会に出てからも必ず役に立つでしょう。

今年度は、対面授業とオンライン授業の併用(対面授業約7割)という基本方針の下、スタートしました。今年度4月、学生の皆さんが楽しそうキャンパスで過ごしているのを見て、キャンパスに活気を感じ、とても嬉しい気持ちになりました。春学期の終わりに学内での感染拡大の疑いがあり、一時的

に活動制限レベルを4に引き上げましたが、感染はキャンパス外のみで、対面授業等、キャンパス内での感染ではありませんでした。現在もキャンパス内での感染者はいません。これもひとえに皆さんの自粛生活、感染予防へのご協力のお蔭です。

国内のワクチン接種率も向上し、治療薬の開発も進んでいます。国内の新規感染者数も減少し、本学でも11月8日から学内の活動制限レベルを1に引き下げました。課外活動などの制限も緩和され、通常の状態に近づきつつあります。まだまだ予断を許さない状況ですが、「光」は見えています。神様は、試練から逃れる道を備えてくださいます。そのことを信じ、日々感謝しつつ、一日も無駄にしないよう学生生活を充実したものにしていきたいと思います。我々教職員も、そのために皆さんを支援します。

(祈祷)

ご在天の父なる神様、本日、このようにして奨励の機会を与えてくださり、感謝申し上げます。拙い奨励ではございますが、足りない部分は、どうか主が補ってください。

私たちは、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の試練に直面しました。しかし神様は、試練から逃れる道を備えてくださいます。

また私たちは、平凡な日常が、いかに幸せなことか改めて感じさせられました。どうか日々感謝することができるよう、お導きください。

学生、教職員、学校法人聖学院に連なる全ての方々の健康をお守りください。悩みを抱えている方がいらっしゃれば、どうか癒しと慰めをお与えください。学校法人聖学院の歩みの上に、豊かな祝福をお与えください。

これらの祈りを主イエス・キリストの御名により御前にお献げいたします。

アーメン

2021年12月3日 聖学院大学 全学礼拝